



第二十五回

北九州市障害福祉団体連絡協議会

定期総会開催

六月四日(土)午前十時から、北九州市立障害者福祉会館(ウエルとはた)6AB研修室で北九州市障害福祉団体連絡協議会(以下障団連)の第二十五回定期総会が行われました。コロナ禍ということでオンラインと会場での開催となり「さわやか」から高原が会場で参加しました。

初めに、北九州市手をつなぐ育成会(親の会)の中島和子氏から開会の宣言がありました。
三年ぶりの開催

大変な喜び

続いて、林芳江会長から「皆様、この二年数ヶ月本当にそれぞれがものすごく努力をされて三年ぶりの総会が行われることが大変な喜びです。」

またコロナとの共存は終わったわけではありません。誰ひとり取り残さない共生社会に向けて発信する役割が残っています。



北九州市障害福祉団体連絡協議会の総会の様子

ボランティア研修会のお知らせ

現在、新型コロナウイルスの感染症が落ちついているので、今年1月に予定しておりました研修会を開催することとなりました。詳細は下記の通りです。

記

日時：令和4年7月17日(日)
10時30分～12時

会場：小倉リーセントホテル
帆柱の間

講師：江頭眞紀子氏

(公益財団法人健和会 健和会京町病院 医師)

※講演内容は後日お知らせします

感染対策も万全に行なって、皆様のご参加をお待ちしております。

主催：特定非営利活動法人
通院介護センター「さわやか」

障団連が発足以来掲げてきた「**団結しよう、小さな力から大きな力へ**」や一貫してきた活動を、行政、市議会、関係者の皆様としっかり手をむすんでまいりましょう」と挨拶がありました。

また、来賓として北橋健治北九州市長、成重正丈北九州市議会副議長、江頭眞紀子氏が来られました。

努力していきたい

来賓のことばとして北橋



市長は「三年ぶりに対面の総会にお声をかけていただきました。」

林会長はじめ、結成以来共生社会の実現をめざして着実に歩みを進めてこられた真摯なご活躍に対して感謝申し上げます。

今後とも一緒に頑張って共生社会の実現に向けて努力していきたい」と挨拶されました。

お互いの人格や個性を

尊重しよう

次に成重副議長より「すべての市民が障害のある、なしに係わらずお互いの人格や個性を尊重し、安心していきいきと暮らしていけるように努力していきたい」と挨拶がありました。

引き続き、総会に入りま

議長には、NPO法人北九州精神障害者福祉会連合会の田原恭子氏が事務局より選任され承認されました。

障団連事務局より、加盟団体四十団体、出席団体(オンライン参加含む)二十五団体委任団体十四団体での総会は成立するとの報告がありました。

また、議事録署名人に北九州あゆみの会の益良一氏が選任され承認されました。その後、第一号議案令和



三年度事業報告、第二号議案決算報告、第三号議案会計監査報告があり、第一号議案から三号議案までの一括審議があり、承認されました。

次に、第四号議案令和四年度事業計画(案)、第五号議案令和四年度収支予算(案)、第六号議案会費規定の変更が提案されました。

第四号議案から六号議案までの一括審議があり、承認されました。

障害福祉に必要な運動や

活動を進めていきたい

今年度の障団連は、まずコロナ禍が終息することを願い、以前のように連絡協議会として障害福祉に必要な運動や活動を進めていくことが出来るように努めます。

それに伴い会員団体の皆さんにたくさん参加していただき、運動を盛り上げていきます。

また、内外のニーズに合わせるよう、常任委員会や部会等と事務局で状況に応じて見直し、効率的な情報共有等を意識した事業計画と事業方針を述べられました。

総会は午前十一時四十分



マスク着用の考え方 ①

● 2022年5月20日、厚生労働省はマスク着用に関する考え方について事務連絡を发出

- 基本的感染対策としてのマスク着用の位置づけは変更しない
- 身体的距離の確保や会話の有無別にマスク着用の考え方を以下のとおり明確化

	身体的距離(※)が確保できる ※ 2m以上を目安		身体的距離が確保できない	
	屋内(注)	屋外	屋内(注)	屋外
会話をを行う	着用を推奨する (十分な換気など感染防止対策を講じている場合は必ずしも可)	着用は必要はない 事例①	着用を推奨する	着用を推奨する
会話をほとんど行わない	着用は必要はない	着用は必要はない	着用を推奨する 事例③	着用は必要はない 事例②

(注) 外気が入れられる、建物の中、地下街、公共交通機関の中など
 ● 夏場については、熱中症防止の観点から、屋外の「着用が必要はない」場面で、マスクを外すことを推奨
 ● お年寄りや会話しやすい場所に行くときなど、ハイリスク者と接する場合には、マスクを着用する。

事例①
ランニングなど離れて行う運動
鬼ごっこなど密にならない外遊び
事例②
徒歩での通勤など、屋外で人すれ違うような場合
事例③
通勤電車の中

感染対策予防における マスク着用の見直しについて

五月二十三日に、政府の新型コロナウイルス対策の「基本的対処方針」が改訂され、マスク着用の考え方が変わりました。熱中症等のリスクを踏まえ、特に屋外での、他者と身体的距離の確保されているような場面、あるいは身体的距離が確保できなくても会話を行わない場面では、マスクの着用が必要がないと発表されました。

新型コロナウイルス感染症の基本的な感染対策として、マスクの着用は極めて重要です。

ただし、マスクを着用していない場合と比べると、心拍数や呼吸数、血中二酸化炭素濃度、体感温度の上昇など身体に負担がかかることがあります。

特に夏場の高温・多湿といった環境下では、マスク

着用による熱中症のリスクも高まります。

このため、「どんな場面でもマスクが必要か、どんな場面ならマスクを外して大丈夫か」など、マスクの着用について、国から考え方が示されました。

今から紹介する事例を参考に、生活の各場面に応じたマスクの着用等による感染対策をお願いします。

家庭内での食中毒予防について

食中毒予防のポイント

中毒というと、飲食店で食事の原因と思われるが、毎日食べている家庭の食事でも発生しています。

普段、当たり前に行っていることが、思わぬ食中毒を引き起こすことがあるのです。

家庭での発生では症状が軽かったり、発症する人が1人や2人のことが多いことから風邪や寝冷えなどと

マスクの着用が

必要ではない場合



【屋外】

- ・ 会話がほとんどない場合
- ・ 会話があっても人との距離が2m以上(目安) 離れている場合
- 例・ 散歩やランニングをする場合
- 例・ 徒歩や自転車通勤・通学をする場合
- 例・ 鬼ごっこなどの密に

ならない外遊びをする場合

いて、十分な換気など対策をとっている場合

- 例・ 徒歩や自転車通勤・通学をする場合
- 例・ 鬼ごっこなどの密に

【屋内】

- ・ 人との距離が2m以上(目安) 離れていて、会話がほとんどない場合
- ・ 会話があっても人との距離が2m以上(目安) 離れて

子どもは、次の点に考慮して

食中毒予防の3原則

増やさない、やっつける

食中毒は、その原因となる細菌やウイルスが食べ物に付着し、体内へ侵入することによって発生します。

食中毒を防ぐためには、



細菌の場合、細菌を食べる物に「付けない」、食べ物に付着した細菌を「増やさない」、食べ物や調理器具に付着した細菌を「やっつける」という3つのことが原則となります。

(インターネットより参照)

屋外・屋内でのマスク着用について

新型コロナウイルス感染症対策

● マスク着用は基本的な感染防止対策として重要です。
一人ひとりの行動が、大切な人と密に接することを防ぎます。
● 屋外では、人との距離(2m以上を目安)が確保できる場合は、マスクを着用する必要はありません。距離が確保できなくても、会話はほとんど行わない場合は、マスクを着用する必要があります。
● 屋内では、人との距離(2m以上を目安)が確保できて、かつ会話はほとんど行わない場合は、マスクを着用する必要はありません。

【屋外】

距離が確保できる	距離が確保できない
<p>マスク着用推奨</p> <p>会話をする</p> <p>マスク着用推奨</p> <p>会話をほとんど行わない</p> <p>公園での散歩やランニング、サイクリングなど</p>	<p>マスク着用推奨</p> <p>会話をする</p> <p>マスク着用推奨</p> <p>会話をほとんど行わない</p> <p>散歩や自転車での通勤など、屋外で人すれ違う場面</p>

【屋内】

距離が確保できる	距離が確保できない
<p>マスク着用推奨</p> <p>会話をする</p> <p>マスク着用推奨</p> <p>会話をほとんど行わない</p> <p>換気設備が十分な建物内での活動、換気設備</p>	<p>マスク着用推奨</p> <p>会話をする</p> <p>マスク着用推奨</p> <p>会話をほとんど行わない</p> <p>通勤ラッシュ時や人混みの中ではマスクを着用しましょう</p>

高齢の方と会う時や病院に行く時は、マスクを着用しましょう。体調不良時の出勤・登校・移動はお控えください。

夏場は、熱中症防止の観点から、屋外でマスクの必要はない場面では、マスクを外すことを推奨します。

厚生労働省

乳幼児(小学校に上がる前の年齢)のマスク着用には注意が必要であり、特に2歳未満では推奨されません。

2歳以上の就学前の子どものについても、本人の体調がすぐれず持続的なマスクの着用が難しい場合は、無理に着用する必要はなく、マスクを着用する場合は、保護者や周りの大人が子どもに十分注意した上で着用するようにお願いします。

(インターネットより参照)